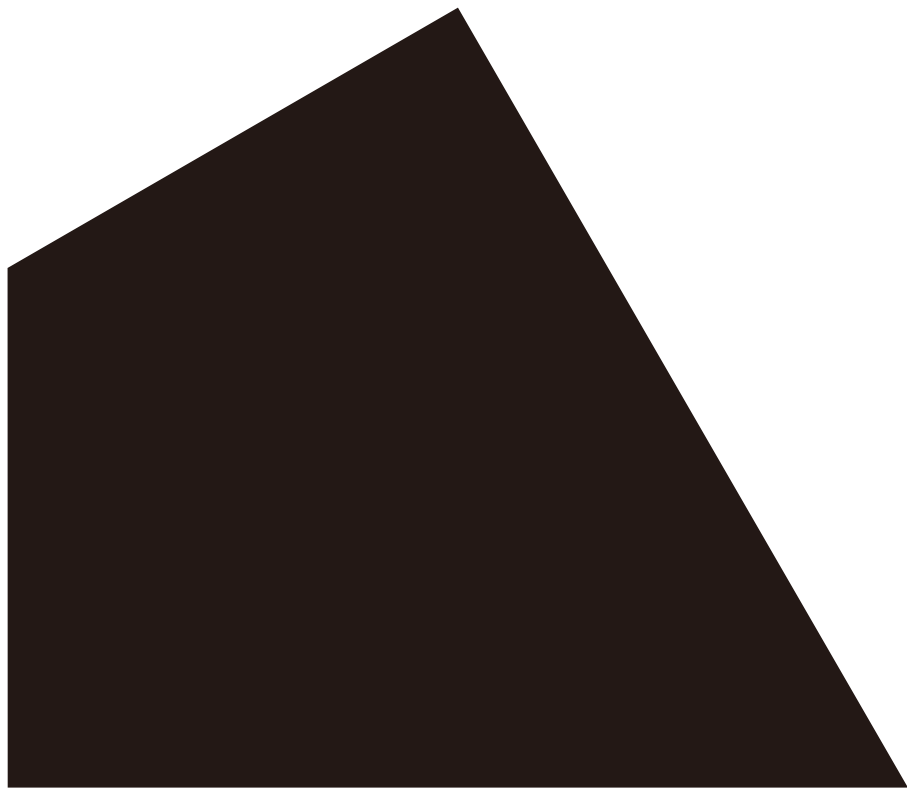


文
化

Culture



霽れと褻(ハレとケ)

京都の地域文化を象徴する祭り。その準備は、日常の中で進められます。

地域で独自に発展してきた伝統を守り、また時代や環境に応じて革新を重ねながら各地の暮らしに息づく「ハレとケ」のストーリーを辿ります。

The Festive and the Mundane

Festivals embody Kyoto's local culture, and their preparations are seamlessly integrated into everyday life.

Explore the dynamic interplay between the festive and the mundane, a story that thrives as local communities continue to preserve their unique traditions, while continuously innovating to meet the changing times and environment.

- | | |
|---|--|
| 1 葵祭行列保存会
Aoi Matsuri Procession Preservation Society | 5 福知山踊振興会、日本の鬼の交流博物館
Fukuchiyama Dance Association, Japan Oni Exchange Museum |
| 2 公益財団法人 祇園祭山鉾連合会
The Gion Matsuri Yama-Hoko Rengokai Foundation | 6 宮津市 上司太刀振保存会
TACHIFURI Preservation Society in Joushi Miyazu |
| 3 平安講社
Heian Kosha | 宮津おどり振興会
Miyazu Odori Folk Performing Art Promotion Association |
| 4 和知太鼓保存会
Wachi Taiko Preservation Society | 7 宇治田楽まつり実行委員会
Uji Dengaku Maturi Executive Committee |

1-1

優雅な行列で京都を彩る 葵祭

国家や国民の無事と安全を祈る

葵祭(正式名:賀茂祭)は、賀茂御祖神社(かもみおやじんじゃ／下鴨神社)と賀茂別雷神社(かもわけいかづちじんじゃ／上賀茂神社)の例祭で、国家や国民の無事・安全を祈る祭儀です。

京都三大祭のひとつ

「葵」祭と呼ばれるようになったのは、江戸時代以降といわれ、社殿、衣服、牛馬など、あらゆるところに葵の葉を飾ることが由来とされています。毎年5月15日に行われ、祇園祭、時代祭とともに京都三大祭のひとつに数えられています。

葵祭行列保存会



1-2

葵祭の檜扇（ひおうぎ）

葵祭で斎王代が身に着ける檜扇

「斎王」とは、天皇に代わって賀茂社にお仕えする未婚の皇女です。平安時代、嵯峨天皇の娘の有智子内親王（うちこないしんのう）を賀茂大神の斎王として遣わせたことにはじまります。

斎王は葵祭のヒロイン

鎌倉時代初期には斎王が途絶えますが、現在は斎王の代理として斎王代が選ばれるようになり、女人列が復興しました。葵祭のヒロインとして毎年注目されます。



葵祭行列保存会

1-3

葵祭の造花

葵祭を鮮やかに彩る造花

勅使用の牛車である御所車には、藤の花、杜若（かきつばた）、紅梅、白梅などの造花が鮮やかに装飾されます。

花笠にも造花を装飾

行列の第三列と第四列で登場する花傘「風流傘」には、牡丹や山吹の造花を装飾し、傘を持つ執物舎人（とりものとなり）の装束にも花傘と同じ造花があしらわれます。



葵祭行列保存会

2-1

34の山鉾が氏子地域を巡る 八坂神社の祭礼「祇園祭」

1か月にわたって行われる祇園祭

祇園祭は、京都市東山区にある八坂神社の祭礼で、毎年、7月1日から31日までの1か月間、神社の境内だけでなく、市内各地で大小さまざまな行事が執り行われます。

「動く美術館」

7月17日(前祭)と24日(後祭)に都大路を巡る34の山鉾は、豪華絢爛な幕類や鍔金具(かざりかなぐ)で美しく飾られ、「動く美術館」とも呼ばれています。

京都から全国、そして世界へ

祇園祭山鉾の起源は古く、全国のお祭りに影響を与えています。国の文化財に指定されるだけでなく、ユネスコ無形文化遺産にも登録されています。



公益財団法人 祇園祭山鉾連合会



2-2

祇園祭の「ちまき」と「手ぬぐい」

祇園祭の「ちまき」とは

祇園祭の期間中、山鉾のある町内や八坂神社で、笹の葉でつくられた「ちまき」が授与されます。八坂神社の神様である素戔鳴尊(すさのおのみこと)(牛頭天王(ごずてんのう))が旅路で一夜の宿を求めたところ、蘇民将来(そみんしょうらい)という人物が快く応じたことから、そのお礼として蘇民将来の子孫は疫病から守ると言い、その目印として茅(ち)の輪を腰につけさせたのが「ちまき」の始まりと言われます。

祇園祭の手ぬぐい

祇園祭の期間中、山鉾のある町内では、さまざまな授与品が見られます。多くの町内で共通して見られるのが手ぬぐいで、それぞれの山鉾などにまつわる意匠で染めぬかれています。



公益財団法人 祇園祭山鉾連合会

3-1

動く歴史風俗絵巻 時代祭

平安神宮の創建を奉祝する祭

時代祭は、1985年平安神宮の創建を奉祝して京都市民をあげて始められた祭です。京都が日本の首都として千有余年にわたって培ってきた伝統工芸技術の粋を、動く歴史風俗絵巻として披露する歴史と伝統の都・京都ならではの祭です。



明治維新から平安時代へ遡る大行列

毎年10月22日に行われ、葵祭、祇園祭とともに京都三大祭のひとつに数えられています。時代祭行列は、明治維新時代から平安時代へ遡る倒叙法で構成され、およそ2000余名の大行列となります。



3-2

鞍

時代祭の行列で実際に使用される鞍

時代祭では、約70頭の馬に様々な時代を象徴する人物の装束に身を包んだ人達が乗り、各時代を細部まで再現しています。



3-3

楠木正成

後醍醐天皇を出迎えた楠木正成

楠木正成は、後醍醐天皇による鎌倉幕府打倒と建武の新政に貢献した武将です。時代祭では、元弘3年(1333年)に後醍醐天皇が配流先の隠岐からの還幸にあたって、楠木正成が兵庫に出迎え先駆して上洛した様子を表しています。



4

長い歴史の中で培われた勇壮な響き「和知太鼓」

和知太鼓の起源・お伽草子「酒呑童子」

約千年前、摂津守・源頼光が帝の命をうけ、反逆の徒（大江山の鬼）を討つため、多くの部下を従えて京の都を出発。園部、須知を経て、和知庄の草尾峠にさしかかったところ、激しい雷雨に見舞われ、雨やどりしたのが京丹波町（旧和知町）の藤森神社でした。雨もあがり、いざ出陣。この時に村人たちが頼光の武運長久を祈願し、兵士の士気を鼓舞するため、打ち鳴らした太鼓が「和知太鼓」の発祥といわれています。



長い歴史の中で培われた伝統の技法

和知太鼓には、太鼓一張に一人が「地打ち」、もう一人が「大打ち」という基本形があり、長い歴史の中で培われてきました。



和知太鼓保存会
船井郡京丹波町篠原

5-1

福知山踊り

～みんなでつなぐドッコイセの輪～

16世紀から踊り継がれる福知山踊り

福知山踊りは400年以上の歴史ある踊りで、明智光秀公由来の唯一の郷土芸能として親しまれています。

大阪・関西万博で2回目の出演に

1970年開催の大阪万博に出演した当時の子ども用の浴衣、パンフレット、新聞を展示。今回の大阪・関西万博での出演は約55年ぶり2回目となります。

国内でもトップクラスの難しさ

パンフレットでは、16手振りある国内でもトップクラスに難しい踊りをイラスト付きで解説。福知山踊りの動画も上映しています。



福知山踊振興会
福知山市上新44

5-2

しゅてんどうじ 大江山 酒呑童子伝説

大江山に伝わる鬼伝説

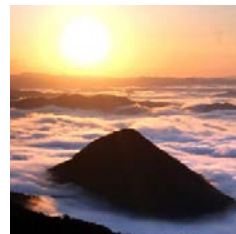
大江山には3つの鬼伝説が伝わっており、そのうち最も有名なものが「酒呑童子」の伝説です。

最強の鬼・酒呑童子

酒呑童子は、京都府福知山市にある大江山に棲んでいたとされる最強の鬼です。平安時代、京の都で悪行を繰り返していたため、山伏に扮した武将・源頼光一行にだまし討ちに遭い、退治されたと言われています。

鬼とは何者か

「鬼」は恐ろしいイメージでとらえられることが多いですが、中には神として祀られる鬼や、魔除けや福を呼ぶ鬼も存在します。「鬼とは何か?」という問いは、永遠のテーマなのです。



日本の鬼の交流博物館
京都府福知山市
大江町佛性寺909



様々な鬼や妖怪が
見られる画像データベース
提供：国際日本文化研究センター

5-3

しゅてんどうじ よみがえる酒呑童子

今も大江山に息づく鬼たち

歴史上最も有名な大江山の鬼・酒呑童子は、だまし討ちに遭った際、「鬼はこんな卑怯なことはしない」と言い残したと伝えられています。果たして、この鬼の正体とは何だったのでしょうか？ぜひ酒呑童子と一緒に写真を撮って、あなたにとっての「鬼とは何か」を考えてみてください。



鬼文化を未来へ

福知山市にとって、鬼は今も身近な存在です。5月3日、大阪・関西万博の会場で酒呑童子と鬼たちが「大江山酒呑百鬼夜行」として練り歩きました。その百鬼夜行と連動した特別展を、2025年秋に日本の鬼の交流博物館で開催。「大江山酒呑童子祭り」も開催されます。ぜひ「鬼の聖地」大江山へ、鬼たちに会いに来てください。



日本の鬼の交流博物館
京都府福知山市大江町佛性寺909



6-1

丹後地域に伝わる祭礼芸能 「上司太刀振り」

丹後地域でも希少な男女編成による太刀振り

太刀振りは、太鼓と笛の伴奏で太刀を勇壮に振り回す、京都府丹後地域に伝わる特有の祭礼芸能です。毎年10月の第2日曜日に、宮津市栗田地区の総社である住吉神社の祭礼(栗田祭り)の際に奉納されます。

江戸時代から営まれてきた地域の伝統

上司自治会では「太刀振保存会」を組織し、毎年10月の祭礼に合わせて、9月の初めから地区公民館や神社境内に集まり、太刀振りの準備や練習を始めます。祭礼前日の宵宮の午後一番に神社境内を出発し、太鼓屋台とともに隊列を組んで町内を練り歩きます。



宮津市 上司太刀振保存会
宮津市上司1424-2

6-2

花街が生んだ宮津の郷土芸能 「宮津おどり」

3つの曲が合わさった郷土芸能「宮津おどり」

宮津おどりは、宮津の花街や旧城下町の町衆の手で受け継がれてきた民謡「宮津節」と「宮津盆おどり松坂」、「あいやえおどり」の3つの唄と踊りで構成される民俗芸能です。昭和30年頃、普及振興のために、宮津おどりとして一つにまとめられました。



宮津文化の“粋”を現代に伝える

平成30年に宮津市無形民俗文化財に指定。「宮津燈籠流し花火大会」とともに夏の宮津を代表する風物詩として、8月15日には市民総おどり大会が盛大に開催され、現在も広く宮津市民に親しまれています。



宮津おどり振興会
宮津市文珠314-2

7

歴史の彼方へ消えた 芸能「田楽」を現代風に復活

古より現代に伝わる「びんざさら」

古い資料にも残る楽器「びんざさら」。今も各地の郷土芸能にその姿をとどめ、現代へ受け継がれています。



日本芸能の雰囲気を表す「振り鈴」

誰しも一度は耳にしたことがある楽器「振り鈴」。古の雰囲気、日本芸能の雰囲気をよく表している楽器のひとつと思われます。



茶筌をアレンジした「茶ちゃら」

宇治の特産である「抹茶」茶道で、お茶を点(た)てる時に使われる「茶筌」をアレンジした楽器「茶ちゃら」。現代への復活のシンボリック楽器です。



宇治田楽まつり実行委員会
宇治市槇島町吹前55-2 プリオ有限会社内

京瓦「キモノタイル」に覆われた 空間デザインと映像・音楽によるノンバーバル表現

オリジナルの京瓦「キモノタイル」によって
質感を統一したミニマルかつ静謐な空間を通じて、
来場者がじっくりと京都の未来と過去に
向き合えるような体験を創出します。
さらに、そこに加わるノンバーバルな映像と音響は、
空間と一体となりながらその多面的な魅力を物語ります。



映像紹介



八幡宮大杉

撮影地：中川八幡宮（京都市北区）



北山杉の生える山

撮影地：北山林業地（京都市北区）



建仁寺垣を作る手

撮影地：三木竹材店（京都市南区）

協力者：三木竹材店



白竹の磨きをする手

撮影地：三木竹材店（京都市南区）

協力者：三木竹材店



できたばかりの建仁寺垣

撮影地：三木竹材店（京都市南区）

協力者：三木竹材店



紙漉きをする手

撮影地：黒谷和紙会館（京都府綾部市）

協力者：黒谷和紙協同組合



漉きたての和紙の耳

撮影地：黒谷和紙会館（京都府綾部市）

協力者：黒谷和紙協同組合



雲海

撮影地：かめおか霧のテラス（京都府亀岡市）

映像紹介



丹後ちりめん

撮影地：スタジオ(京都府京丹後市)
(京都府与謝郡与謝野町)
協力者：丹後織物工業組合



ジャガードの紋紙(もんがみ)

撮影地：株式会社川島織物セルコン
(京都市左京区)
協力者：株式会社川島織物セルコン



京焼

撮影地：スタジオ(京都市東山区)



回るろくろの上で形になる土塊

撮影地：瑞光窯(京都市東山区)
協力者：瑞光窯 東山工房店



おおすみはやとまい 大住隼人舞の盾

撮影地：スタジオ(京都府京田辺市)
協力者：大住隼人舞保存会



おしお まつ 小塩の上げ松

撮影地：京都市右京区京北小塩町(京都市右京区)
協力者：小塩上げ松保存会



能面(小面)

撮影地：スタジオ
協力者：能面師 宇高景子



比叡山山麓から見た京都と大阪の夜景

撮影地：登仙台展望台(京都市左京区)

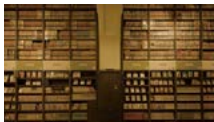
映像紹介



らくちゅうらくがいづびょうふ ふなきほん
洛中洛外図屏風(丹木本)
いわさまたべえ
岩佐又兵衛
協力者：東京国立博物館蔵



そでし たなだ
袖志の棚田
撮影地：京丹後市丹後町(京都府京丹後市)



**京都国際マンガミュージアムの書架
「マンガの壁」**
撮影地：京都国際マンガミュージアム
(京都市中京区)
協力者：京都国際マンガミュージアム



香炉から香が立ちのぼる様子
撮影地：スタジオ



マンガ作画の様子
撮影地：京都国際マンガミュージアム
(京都市中京区)
協力者：京都国際マンガミュージアム



鏡板
撮影地：金剛能楽堂(京都市上京区)
協力者：金剛能楽堂

じゅんおんはいけい

巡音拝景

京都府の今の音と、文献などに記述された音をあつめ、
そこに新たな音を配置(Composition=作曲)して制作する。

1996年に環境省(当時環境庁)は「全国各地で人々が地域のシンボルとして大切にし、将来に残していきたいと願っている音の聞こえる環境(音風景)を広く公募し、音環境を保全する上で特に意義があると認められるもの」として「残したい“日本の音風景100選”」を選定した。それから約30年が経ち、改めて京都府の音を取り上げる。温暖化が加速し、四季が失われつつある現代において山や森林など木々は大変重要で貴重なものである。京都府には豊かな自然があり、美しい音が存在している。自然がこれからも失われないことを祈りながらフィールドレコーディングをした。前述の「音風景100選」で取り上げられたものに加え、新録している。

さらに文学の中にも多くの音の記述がある。録音技術が生まれる以前には古来から人々はことばを使って音を集めた。こういった音を集めることもフィールドレコーディングである。

フィールドレコーディングリスト

Part-1 るり溪(南丹市) 船着場(伊根町) 舞鶴港(舞鶴市) 宮津湾(宮津市) 石清水八幡宮(八幡市)

Part-2 京都御所玉砂利(京都市) 清水寺(京都市) 鹿(京都市) 大江山(福知山市) ちりめん街道 天満神社(与謝野町)

Part-3 琴引浜(京丹後市) 琴滝(京丹波町) 宇治川(宇治市) 真福寺水琴窟(亀岡市) 妙心寺(退蔵院) 水琴窟(京都市)

Part-4 綾部大橋由良川(綾部市) 美濃山竹林(八幡市) 興聖寺(宇治市) 古世親水公園(亀岡市) 詩仙堂鹿おどし(京都市)

御香宮神社(京都市) 雷雨(京都市)

記述されたものからのフィールドレコーディングリスト

大原『平家物語』 鐘の音、鹿の音、虫の音

野宮『源氏物語』 虫の音、松風の音、雅楽の楽器の音

宇治『万葉集』 宇治川にして作る歌二首 1699-1700 雁の鳴き声、川の音

法成寺『栄花物語』 卷第十七「おむがく」 雅楽の演奏音

丹後『丹後国風土記』 逸文 嘆く声、歌

福知山『大江山絵詞』 雷、田楽

石清水八幡宮 世阿弥 能『弓八幡』、『放生川』 不思議な音楽、夜神楽の音

法勝寺『弁内侍日記』 後戸猿楽、鈴の音

谷崎潤一郎 潺湲亭「夢の浮橋」 添水(しおどし)の音

琴弾浜 木内石亭『雲根志』 海辺の砂浜の音

『蜻蛉日記』 車の音

『洛陽田楽記』 永長の大田楽

作・編曲:原 摩利彦

ギター:Polar M

フィールドレコーディング協力:村中真澄

リサーチ協力:原 瑠璃彦

音響デザイン:中原楽(KARABINER inc.)

株式会社 大城音響事務所

制作:MH Studio Inc. / TSUYURI

空間デザイン協力	Space design cooperation
Sandwich	Sandwich
京瓦タイル「キモノタイル」製作協力	Kyoto tile "Kimono tile" production cooperation
株式会社京瓦 浅田製瓦工場	ASADA KAWARA FACTORY
テーマ映像制作	Theme video production
株式会社 青空	AOZORA,LTD
テーマ音楽制作	Theme music production
原 摩利彦	Marihiko Hara

大阪・関西万博きょうと推進委員会